

政策整理番号 34

## 評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備
------	------------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効

概ね有効

課題有

【政策評価指標達成状況から】有効  
 ・指標名:高速道路IC40分間交通圏カバー率 達成度 A  
 ・気仙沼・本吉などの沿岸地域以外は高速道路が整備され、高速道路ネットワークと各地を結ぶ国道・県道・市町村道がある程度整備されているからである。  
 ・指標名:道路の改良率 達成度 B  
 ・改良率は9割を超えているため、伸びは緩やかであり、目標値は達成できなかった。  
 ・指標名:緊急輸送道路橋梁整備率 達成度 …  
 ・平成17年度に設定した指標であるため、現況値と目標値は同一であり、達成度は判定できない。

【県民満足度(政策)の推移から】概ね有効  
 ・県内は多くの地区に高速道路が整備されているが、気仙沼・本吉圏域以外はある程度満足されている状況である。  
 ・緩やかながら着実に道路改良を進めているが、政策満足度は中央値が50点、満足度60点以上の割合は45.2%と低くはない状態である。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効  
 ・本県の高速道路整備率を全国値と比較すると、平成18年4月現在で全国値62%に対し、県は68%と整備率はやや高い水準にある。  
 ・本県の改良率を全国値と比較すると、平成16年4月現在で全国値に対して約9%高い。  
 ・宮城県沖地震が想定されている中で、重要な拠点へのルート確保が重要視されている。

【総括】

・政策評価指標達成度及び社会情勢データから、有効と判断する。

## 施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1		一般国道398号石巻バイパス	6		
2		一般国道346号鹿島台バイパス	7		
3		一般国道113号館矢間バイパス	8		
4		橋梁耐震補強	9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切

概ね適切

課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】適切  
 ・(国)直轄国道の整備  
 ・(県)補助国道及び県道の整備  
 ・(市町村)市町村道の整備  
 ・(民間団体)道路愛護団体やアドプト団体による地域住民活動、各道路建設同盟会等による建設促進活動

【施策目的を踏まえた事業か】適切  
 ・道路は社会基盤であり、国又は県市町村等の地方公共団体が整備すべきものである。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切  
 ・各種道路により、管理者が明確になっているため、事業の分担は明確である。

【社会経済情勢に適応した事業か】適切  
 ・各種事業は土木行政推進計画に則り、計画的な執行を行っている。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)概ね適切  
 ・重視度は高いかい離は高い状況にあり、県民は現状に満足していないことは確かであるが、逆に期待するところも大きいと判断する。

【総括】

・施策目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査から判断して、本施策の事業設定は適切と判断する。

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】概ね有効  
 ・施策満足度は55点であり、満足度60点以上の割合も46%程度であることから、「概ね有効」と判断する。

【政策評価指標達成状況から】概ね有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋  
 ・政策指標は達成しているものもあり、各事業は概ね有効であったと判断する。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効  
 ・陸運統計要覧から、輸送機関別の国内旅客で自動車の占めるシェアは、輸送人員では67.9%、輸送人キロ60.4%を占めており、社会基盤のうえで大きな割合を占めている(H15)。

【業績指標推移から】概ね有効  
 ・道路整備には、相応の期間と事業費を要するため単年度では業績や成果が上がらない年度があるが、事業費の推移からわかるように、事業は着実に進行しているため「概ね有効」とした。

【成果指標推移から】概ね有効  
 ・上記理由から指標の伸びはなかった。

【総括】  
 ・道路の改良率は9割を超え、かなり整備が進んでいる。このため、施策満足度、業績評価指標、成果指標に変化は見られなかった。しかし、優先度は1位であることから、県民はさらなる道路整備を望んでいると言えることから、「概ね有効」と判断する。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】概ね効率的  
 ・事業は複数年度にわたるため、政策評価指標は横ばいで推移している。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】概ね効率的  
 ・各種統計の自動車の占めるシェアは伸びており、指標も緩やかに伸びている。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】課題有  
 ・事業は複数年にわたるため、単年度だけでは評価はできない。

【総括】  
 ・道路事業は複数年事業であるため、事業の効率性を単年度ごと判断するのは難しいが、個別の事業計画やコスト縮減の積み上げにより、各事業は効率的に展開している。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・B-1施策目的の達成のための事業設定及び県の関与は適切と判断される。  
 ・B-2施策満足度は低くはなく、政策評価指標も目標を達成しているものがあり、施策は概ね有効と判断される。  
 ・B-3事業の性格上、事業群の有効性・効率性は単年度での判断は下しにくい面もあるが、事業は概ね効率的である。  
 ・各項目を総合的に判断すると「概ね適切」とであると判断した。

政策整理番号 34

事業分析カード(業績)

対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備		
------	------------	-----	---------------------	--	--

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		
------	---	-----	---------------	--	--

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果								
事業番号	事業名 [担当課室名]	H17 事業費 (千円)	事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に)	事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に)	業績指標名 (事業の活動量。「事業の手段」に対応)	事業費(千円)		
						H15	H16	H17
						効率性指標 (3.5E-02は3.5 × 10 <sup>-2</sup> )		
1	一般国道398号 石巻バイパス [道路課]	1,180,000	利用者	石巻バイパス事業を実施した	供用延長(m)	0.0 1,236,000 0.0E+00	0.0 1,630,000 0.0E+00	0.0 1,180,000 0.0E+00
2	一般国道346号 鹿島台バイパス [道路課]	550,000	利用者	鹿島台バイパス事業を実施した	供用延長(m)	0.0 764,000 0.0E+00	0.0 550,000 0.0E+00	0.0 550,000 0.0E+00
3	一般国道113号 館矢間バイパス [道路課]	250,000	利用者	館矢間バイパス事業を実施した	供用延長(m)	0.0 590,000 0.0E+00	0.0 782,000 0.0E+00	0.0 250,000 0.0E+00
4	橋梁耐震補強 [道路課]	1,079,240	利用者	橋の耐震化工事を実施した	橋梁数			24 1,079,240 2.2E-05
5	[ ]							
6	[ ]							
7	[ ]							
8	[ ]							
9	[ ]							
10	[ ]							
	[ ]							
	[ ]							
	事業費合計	3,059,240						



対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

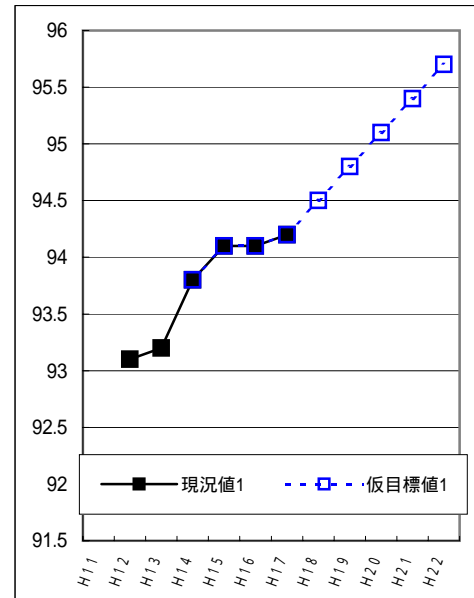
政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備
------	------------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
高速道路IC40分間交通圏カバー率		%						
目標値	難易度	H17	94.2	H22	95.7			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14	H12	H13	H14	H15	H16	H17	
現況値 (達成度判定値)	93.8	93.1	93.2	93.8	94.1	94.1	94.2	
仮目標値				93.8	94.1	94.1	94.2	
達成度				...	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

国内交流を進めるための交通基盤整備の指標としては、国内各地と連結する高速道路ICまでの行きやすさが適切と考えられる。一方、県においては道路計画において40分間交通圏構想があるため、これらを総合した高速道路IC40分間交通圏カバー率を作成、選定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	80	施策重視度 A	80	80	80			
施策満足度(中央値、点)B	55	施策満足度 B	60	60	60			
かい離 A-B	25	かい離 A-B	20	20	20			
満足度60点以上の回答者割合(%)	46.2	満足度60点以上の回答者割合	57.1	53.8	53.5			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度:A  
 ・現況値は目標値を達成している。  
 ・平成17年度は新たなICの供用が無かったことから、現況値に伸びは見られなかった。  
 ・今後平成18年度に新たなICが供用され、これにアクセスする国道・県道・市町村道が整備されないと、指標値の向上は見込まれない。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】  
 ・国内の交流機能を図る指標としては、全県内から国内交流の一躍を担う高速道路ICまでのアクセスが適切と考えられる。

対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

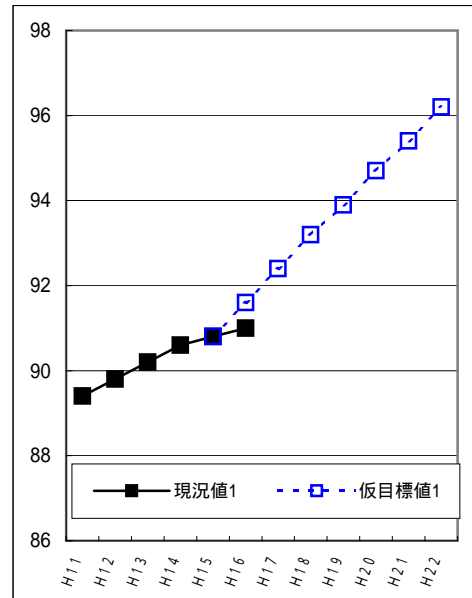
政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備
------	------------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
道路の改良率		%						
目標値	難易度	H17	92.4					
		H22	96.2					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14	H11	H12	H13	H14	H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	90.6	89.4	89.8	90.2	90.6	90.8	91.0	
仮目標値					90.6	90.8	91.6	
達成度					...	A	B	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・施策「国道、県道、市町村道の整備」を「一般道路の整備」とらえれば、現在の指標である「高速道路IC40分間交通圏カバー率」は、国県道等の整備よりも、高速道路の整備率に大きく依存するものであるため、施策に対して直接的な指標であるとはいえない面がある。このため、より直接的に本施策の推進結果を表すものとして、「道路の改良率」を選定するものである。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	80	施策重視度 A	80	80	80			
施策満足度(中央値、点) B	55	施策満足度 B	60	60	60			
かい離 A-B	25	かい離 A-B	20	20	20			
満足度60点以上の回答者割合(%)	46.2	満足度60点以上の回答者割合	57.1	53.8	53.5			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度: B  
 ・道路事業費が減少傾向にあることから、目標値達成は難しい状況である。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】  
 ・指標値は、近年の事業費削減のため達成は困難が予想されるが、指標としては適切である。

対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

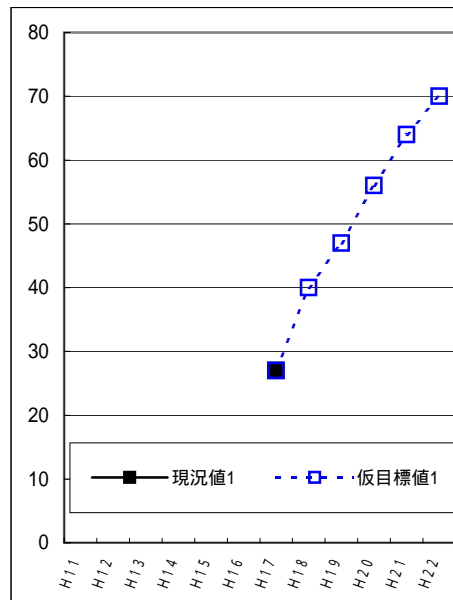
政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備
------	------------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
緊急輸送道路橋梁整備率		%						
目標値	難易度	H17	27					
		H22	70					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H17							H17
現況値 (達成度判定値)	27.0							27.0
仮目標値								27.0
達成度								...

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・本事業を実施することにより、震災時においても重要な拠点へのルートを確保することが出来、ひいては、安全・安心な日常の交流を促進させるものである。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	80	施策重視度 A	80	80	80			
施策満足度(中央値、点) B	55	施策満足度 B	60	60	60			
かい離 A-B	25	かい離 A-B	20	20	20			
満足度60点以上の回答者割合(%)	46.2	満足度60点以上の回答者割合	57.1	53.8	53.5			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度: ...  
・平成17年度に設定した指標値であるため、達成度の判定はできない。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】  
・国内の交流機能を図る指標としては、県内の緊急輸送道路橋梁整備を指標とすることは適切である。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 34

対象年度	H17	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
政策番号	4 - 10 - 2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備		
施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

[政策評価] 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性  
・該当なし

[施策評価] 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性  
・該当なし

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	拡充	維持	縮小
-----	----	----	----

[方向性の理由]  
・県内の広域的交流を進めるためには、高速道路ネットワークと県内各地を結ぶ国道・県道・市町村道の整備及び緊急輸送道路橋梁整備を図ることは必要である。

[次年度の方向性]  
・緊縮財政の下では、効率的な執行を求められており、事業の効果的な展開を図り全体として、当該施策は「維持」とする。

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1		一般国道398号石巻バイパス	1,180,000	維持	平成22年度供用開始を目指して事業を推進しており、緊縮財政の下で、着実な事業展開を図ってゆく。
2		一般国道346号鹿島台バイパス	550,000	維持	平成23年度供用開始を目指して事業を推進しており、緊縮財政の下で、着実な事業展開を図ってゆく。
3		一般国道113号館矢間バイパス	250,000	維持	平成23年度供用開始を目指して事業を推進しており、緊縮財政の下で、着実な事業展開を図ってゆく。
4		橋梁耐震補強	1,079,240	維持	災害時においても重要な施設へのルート確保のため、第2次緊急輸送道路を平成24年度までに緊縮財政の下で、着実な事業展開を図っていく。
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
		合計	3,059,240		